

H22 年度事業計画

1-1. IUCN-J 通常業務

【自主事業】 IUCN-J 運営事業

- ・ IUCN-J の日常的運営を行う
レッドリスト冊子の更新、IUCN 地域委員会会合への参加、プロジェクトチーム運営
事務局負担費（間接費）
- * 2010 年度以降の IUCN-J の方針について検討する
また、予算規模の拡大に合わせ、会計等の明確等を推進する

1-2. COP10 特別事業

【経団連基金(継続)】

CBD-COP10 に向けた海外連携の強化およびポスト 2010 年目標実施体制構築・検討事業：

目的：2010 年の生物多様性条約第 10 回締約国会議（CBD-COP10）の日本開催にあたり、本事業の目的は、以下のものとする。

1. 生物多様性条約に関する海外の NGO との恒常的な連絡・協力体制の維持・強化と CBD に関する最新の動向を把握し、発信する。
2. CBD-COP10 にて採択されるポスト 2010 年目標の世界的実施に向け、国内のユースグループの育成と、日本国内での展開にむけた体制（「生物多様性の 10 年」や「カウントダウン 2020(仮)」など）の確立に向けて努力する。

主な事業は以下の通り。

1. 海外（IUCN、CBD 事務局、CBD アライアンス）・国内 NGO 連携推進事業（継続）

団体コーディネイト業務(プログラムオフィサー（石黒玲子）委託)

*もう一名検討

2. 国内のユースグループとの協働をつうじた「プロジェクト(4_U)：ユースの育成および CBD-COP10 における海外/国内団体の活動支援事業

ユースグループによる人材発掘と研修コーディネイト、普及のためのツール作成（小冊子・マンガ等）、CBD-COP10 における海外/国内団体の活動支援、CBD-COP10 でのユースレポートの発信支援を行う。

3. ポスト 2010 年目標実施体制検討・協力事業

ポスト 2010 年目標の世界的実施に向け、「国際生物多様性の 10 年」の実現や「カウントダウン 2020(仮)」といった仕組みを検討し、日本展開にむけた体制等を検討する

「国際生物多様性の 10 年」の提案や、カウントダウン 2010 会員会合参加と、カウントダウン 2020（仮）の立ち上げ発表イベントへの協力（10 月 29 日）をする。

時期：通年

対象：IUCN-メンバー（特に、COP10 参加団体）、CBD 市民ネット

場所：ベルギー（国際会議参加）、国際会議場（ユース）、都内（C2020 準備会合）

協力者：プログラムオフィサー（石黒玲子）

COP10 プロジェクト(4_U)：エコ・リーグ（主担当：松井宏宇）

国際生物多様性の 10 年：ラムサールネットワーク（主担当：柏木実）

IUCN-J プロジェクトチーム

【地球環境基金（継続）】

CBD-COP10 主要議題の成果実現に向けた市民版行動計画立案事業

目的：生物多様性条約（CBD）第10回締約国会議（COP10）では、条約戦略計画や保護地域作業計画など今後の自然保護に関する行動計画等を議論し、COP10以降その成果（決議）の世界レベル・国レベルの実施が求められている。そこで、CBD-COP10の成果の実施にNGOとして寄与することをめざし、本年度は、①CBDに関する国際会議への出席を通じた主要議題の国際動向の把握とIUCN(国際自然保護連合)加盟団体等との共同によるCOP10の準備、②COP10期間中のCOP10参加団体との意見交換の場作り、③主要議題に関するCOP10の成果（決議）を実現のための行動計画取りまとめと発信を通じた、市民版行動計画作りと共有を目的とする。

主な事業項目は以下の通り。

1. 国際情報収集及び国内戦略会議開催事業

ケニア・ナイロビで開催されるSBSTTA（5月10-21）やWGRI（5月24-28）に参加し、21年度の事業成果の発信、条約戦略計画や保護地域等に関するサイドイベントでの情報収集やCOP10の決議草案などの情報を収集し、6月から9月にかけて国内の主要団体・専門家間で評価・分析・検討を行う戦略会議を2回程度行う。戦略会議参加者は、IUCNに加盟するNGOや生物多様性条約・保護地域に関する専門家等とする。

2. 展示・セミナー開催事業

IUCNと共同で国際会議場脇の展示ブースを確保し、共同展示やセミナー・戦略会議等を企画し、IUCNや国内外のIUCN加盟団体と意見・情報交換を行い、COP10後の成果をフォローするためのネットワークを築く。講師は、COP10に参加している海外NGOやIUCN専門家等を想定する

3. フォローアップワークショップ開催事業

COP10後プロジェクトチームにて、COP10の成果（決議）の分析や展示・セミナー等の成果を資料としてまとめる。その資料を元に、12月から翌年1月の間にワークショップ（2日間を想定）を開催し、条約戦略計画や保護地域等の成果（決議）を、専門家やNGOと共に分析し、決議実施に向けた日本の市民側の取組み（市民版行動計画）を取りまとめる。ワークショップの成果報告は、ワークショップ参加団体以外の団体にも活用可能なものとなるよう、活動チェックリストや資料集のようなわかりやすい形式でまとめることとし、条約戦略計画や保護地域等に関係するNGOに発信する。

時期：通年（1月まで）

対象：IUCN-メンバー、その他のNGO、研究者

場所：ナイロビ（SBSTTA）、都内（会議、ワークショップ）、白鳥国際展示ブース（COP10）

協力者：IUCN-Jプロジェクトチーム、IUCNの専門委員会（WCPA-J）、研究者等

【自主事業】 CBD-COP10 対応事業（キャンペーン・他団体連携）

目的：CBD-COP10 に向けた普及啓発に IUCN-J として貢献すると共に、COP10/MOP5 において行われる他団体の各種事業に対して支援、協力、共催する体制を整える

1. 折り紙プロジェクト

IUCN と生物多様性（及び CBD-COP10）の認知拡大と新しい支援層の拡大をめざした、キャンペーンの検討、実施。（環境省、CBD 事務局、支援実行委員会と調整しながら実現の可能性を模索する）

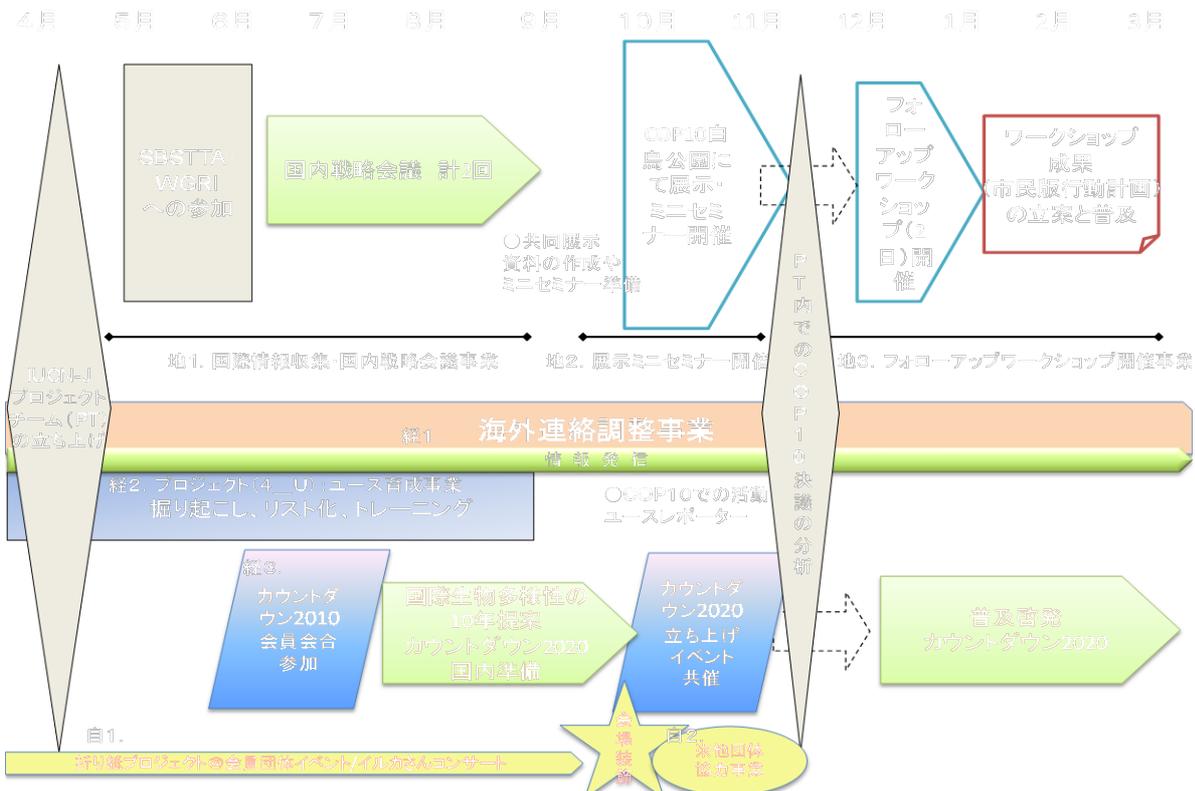
時期：4－6 月（準備）、6－10 月（実施）
 対象：一般市民、場所：国際会議場内
 協力者：IUCN メンバー（日本野鳥の会など）と関係する地域ネットワーク、環境省、CBD 事務局、支援実行委員会）等

2. CBD-COP10 用の他団体協力準備金

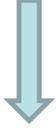
IUCN 等の国際 NGO や CBD 市民ネット等との連携が必要な事業（緊急記者会見等）に急遽対応できる予算

時期：10 月（実施）
 想定団体：IUCN や CBD 市民ネット等
 場所：国際会議場・周辺

<平成 22 年度 COP10 特別事業スケジュール>



2010年度IUCN-J COP10特別事業の関係
2009年 ポスト2010年目標検討シンポジウム開催



議長総括(多様な主体の参加による実施体制の確立
 や普及啓発の必要性等 を提言)発表。

2010年 生物多様性のターニングポイント COP10@名古屋



10000人近い参加者
 ポスト2010年目標採択、ABS、
 遺伝子組み換え補足議定書
 保護地域や気候変動などの重要決議採択

自然保護の重要性を
 社会・政治・経済・国
 民意識に組み込んで
 いくことができる絶好
 の機会！！
 日本国内・IUCN会員
 にとっても重要。



2010年＝国際生物多様性年
 あらゆる機会を捉えた生物多様性の普及
 国連総会生物多様性首脳会合(9月)

CBD-COP10/MOP5の基本方針採択
 日本委員会の取り組みの方向性を基に貢献

IUCN会員のプレゼンス発揮

専門・技術支援

他団体との連携・協力

**CBD-COP10主要議
 題の成果実現に向
 けた市民版行動計画
 立案事業(地球環境
 基金)**

- ・SBSTTA/WGRI情報収集
- ・COP10ミニセミナーの
 機会確保
- ・NGOによる決議フォ
 ローアップのためのワー
 クショップ

**CBD-COP10に向け
 た海外連携の強化お
 よびポスト2010年目
 標実施体制構築・検
 討事業(経団連基金)**

- ・生物多様性の10年政策
 提言
- ・カウントダウン2020イニ
 シアティブ実施体制準備

**CBD-COP10対応
 自主事業
 (キャンペーン・
 他団体連携)**

- ・折り紙プロジェクト
- ・他団体協力準備事業

海外連絡調整事業<継続>

プロジェクト(4_U):ユース育成事業